



足立茂久商店

所 長岡市寺泊山田1289

問 0258-75-3190

営 9:00~17:00 ※来店の前に要問い合わせ

休 不定休 駐 3台

海沿いを走る国道402号の寺泊山田で、江戸時代から篠屋を続ける「足立茂久商店」。篠屋とは伝統技術でヒノキやスギの薄い板を輪状にし、ふるいや裏ごし、わっぱせいろなどの曲げ物を作る職人のこと。主に和菓子や日本料理で使う調理道具を昔と変わらぬ技と素材で作り続けている。

「絶滅危惧種的な仕事ですわ」と笑い飛ばすのは11代目の足立照久さん。とはいっても以前テレビ番組で紹介された「電子レンジで使えるわっぱ」に注文が殺到し、現在も納品に向け製作中という。

製作だけでなく、古くなった曲げ物の修理も引き受けたほか、異業種の職人と共同で新しい曲げ物作りに挑戦するなど、まさに大奮闘している。まずは工房向かいの展示室で足立の曲げ物の神髄に触れてみよう。



2020年2月の
「長岡ものづくりフェア」で
実演を行います



店主／足立照久さん



げ 物

※親子2代の作品が並ぶ展示室(即売不可)



「花結び」
左上から時計回りに
アクリル 17,600円
四角(緑)・円筒(白) 13,750円
五角(青) 13,750円
五角(登り窓) 15,400円

曲げ輪に小国和紙を
張り付けた照明器具
「ゆきほのか」33,000円

伝統の手仕事で作る曲げ物
修理も請け負う職人の店

「曲輪(まげわ)
スツール」
張り地は
一重刺子
(ひとえさしこ) 39,050円
モケット/青 40,590円



『ウルトラセブン』放送開始
50周年企画で製作した
「ウルトラセブンスツール」
50,600円

